

令和 5 年 2 月 10 日

教 育 長 様

研究コース	
A グループ研究 A	
校園コード (代表者校園の市費コード)	
732665	
選定番号	142

代表者 校園名 : 大阪市立墨江丘中学校  
 校園長名 : 林 憲治郎  
 電 話 : 06-6674-3612  
 事務職員名 : 尾上 綾香  
 申請者 校園名 : 大阪市立墨江丘中学校  
 職名・名前 : 教諭・尾松 大義  
 電 話 : 06-6674-3612

## 令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A	研究年数	継続研究 (3年目)	
2	研究テーマ	体験型探求学習による教育の効果				
3	研究目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>急速に進む高齢化社会、AI、テクノロジーの進化に対して「生きる力」の向上、新学習指導要領改訂に伴い、「主体的、対話的な深い学び」の育成のために、お互いの心と体の安全を守るフルバリューコントラクトという考え方の育成を目指す。</li> <li>「いのち」をテーマにした自分と他者を大切にする心の育成を体感を通じて育成する。</li> <li>変化する教育に対して、自ら探求し変化し続ける教師の育成</li> <li>学校教育、学校の教育活動を「変わらない為に変わり続ける教師の育成」</li> <li>SDGs 17項目に適した学校行事活動の意味づけと整理 SDGs委員会の設立取り組み</li> <li>体験型教育活動の中でPDCAサイクルとOODAループのサイクルの研究を行う。</li> <li>実在する企業を題材としたインターン体験学習により、仕事観や課題発見力の醸成をはかる</li> <li>探究学習の土台をつくる</li> </ul>				
		いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 9.5ポイント)				

取り組んだ  
研究内容

令和4年6月

本校で『教育と探求社』から講師を招き、9月から行うクエストエデュケーションを効果的に進めるための教職員研修を行った。

令和4年8月～11月

全19回の探求学習『インターン』を行った。導入としてグループワークの進め方、付箋を使った意見の出し方などの基礎的なことを学んだ。進路に繋げるために、インターン先の企業決定時にエントリーシートの記入・個人面接・集団面接を行った。各企業から与えられたミッションを遂行するために、インターネットを使った情報収集、地域に出向いてアンケート調査を行い、企業がもたらす価値・影響などを調べた。各グループごとにミッションに関するプレゼンテーションを行い、最終学年発表会を行った。学年発表時には『教育と探求社』から講師を招き、プレゼンテーションに対する講評・指導助言を頂いた。

令和4年11月15日・16日

関西大学人間健康学部と墨江丘中学校と共同して、2日間、関西大学浅香山キャンパスのアドベンチャーエリアを使った2年生全員、校外学習を実施した。校外学習実施に向けて、不登校生徒、人間関係づくりが苦手な生徒への参加を促し、不登校だった生徒が校外学習に参加し、その後、学校登校できるようになった。

令和4年12月・令和5年1月・2月

○校内研修会、授業研修会を年間3回以上実施し教育手法の講習会を実施する。

オンラインの導入も含め、オンライン活用、オンラインでは補えない教育活動とを明確に分類する講習会の実施、または生活指導スキル研修会を実施

○各学年ICT機器を用いた総合学習を行い、協同的学習の学びの取り組みを行った。グループワークを通し、プレゼンテーションの課題を設定した。

令和5年1月

○千葉県船橋市立飯山満中学校 ICT機器の効果的な使用法について現場視察

○東京都宝仙学園中学校 探求学習のカリキュラム作りについて現場視察

令和5年2月

○探求学習、ICT機器の使用または学校の教育目標である「いのち」についての講和、ア

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。				
		日程	令和 5 年 2 月 20 日	参加者数	約 35 名	
		場所	大阪市立墨江丘中学校			
		備考	Teamsを使ってオンラインで実施			
大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。						
<p><b>【見込まれる成果 1】</b>  <b>大阪市立墨江丘中学校教職員授業力向上を行う。</b>  <b>授業の在り方研究研修、伝達研修を行い生徒の感情にアプローチしたコーチング等を用いた授業展開の研究を行う。</b></p> <p>《検証方法》      学校アンケートより、保護者・生徒アンケートの分かりやすい授業の評価ポイントを昨年度より（生徒アンケート）平均1ポイント以上向上する。（学校アンケート）</p> <p>〔検証結果と考察〕      学校アンケートの結果から、昨年度判りやすい、授業の展開についての項目についての項目が生徒 86.8%（令和3年度）から88.1%とわかりやすいと思う満足度の項目が1.3ポイント向上する結果となった。生徒の実態把握、教師と生徒との人間関係づくりと、教員自らのコロナ禍の中での授業方法の工夫が今回の向上につながった。      探求学習を通して、教師→生徒という一方通行で教えることの代わりに教師が『ファシリテーター』となり共に学ぶ姿勢をとることで、生徒が主体的に意見を出し、学びやすい雰囲気の醸成につながった。</p>						
<p><b>【見込まれる成果 2】</b>  <b>問題解決能力、課題発見能力の向上</b>  <b>生徒の興味関心を高め、問題課題解決能力の向上を行う。</b></p> <p>《検証方法》      学校アンケートより、子どもの学びに関する項目設定を行い、問題に対する取り組むことについて粘り強く取り組むことができたという肯定的回答を 8 5 %以上肯定的回答を目指す。</p> <p>〔検証結果と考察〕      学校アンケートの結果から「子どもの学びに関する項目」授業の判りやすさ、質問のしやすさと信頼関係、補充学習についての項目について（生徒・保護者）肯定的回答平均値、令和3年度3項目の質問平均値67%に対して令和4年度68%に上昇し子どもの学びに対する肯定的意見が向上した。本校3年生は1・2年時にSDGsに関して学習を行ってきたが、今回企業について学習することで、企業がSDGsの取り組みを具体的にどのように行っているか知り、それぞれの企業が各家庭にどのような価値・影響をもたらしているか気づくきっかけとなった。職場体験では経験できない気づきがあった。</p>						
<p><b>【見込まれる成果 3】</b>  <b>教師と保護者、生徒間の信頼関係ラポールをより深く、築くことができ学校運営、学校生徒指導などにつながる。</b></p> <p>《検証方法》      学校質問紙による「先生に質問しやすいですか？」「先生のことを信頼していますか？」の項目を2020年度全体値より平均2ポイント以上上昇（生徒・保護者の平均値）を目指す。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p>						

学校アンケート内容の「先生に対して質問がしやすいと信頼関係」に関する項目で、令和3年度（75.4%）、令和4年度（77.5%）【すべて生徒】と昨年度より2.1ポイント上昇した。探求学習の導入研修を行い、教師の生徒との関わり方を学んだ結果、生徒が主体的に活動したり、自由に意見を言える授業環境ができた。今後は、総合的な学習の時間だけでなく、普段の教科指導においても一方的な授業をするのではなく、授業形態や発問の工夫をし、生徒が探求的な学びができるように教師側の学びを続けていくことが必要である。

研究コース

A グループ研究A

選定番号

142

代表校園

大阪市立墨江丘中学校

校園長名

林 憲治郎

#### 【見込まれる成果4】

大阪市教職員アンケートの学び方、学ぶ方法を構築することができる。  
普段の授業の在り方を見直すきっかけとなり、授業力の向上につなげる。

#### 《検証方法》

研究発表会において普段の授業の在り方を見直すきっかけとなったという質問紙アンケートにより、80%以上の教職員について改善するきっかけとなったという肯定的回答を目指す。

#### 〔検証結果と考察〕

本研究を通じて、意識的に授業の在り方や生徒同士の関係づくりについて考えるきっかけ（教職員アンケート92%きっかけとなったと回答）となり積極的に個人的に学習する教職員が増えた。近年知識を詰め込むだけでなく、その知識をどう使うか・活かすかという指導が求められている。学習体系も個人からペア、グループにしていくなど、他人と対話しながら関わることで知識の定着・伝達をしなければならない。教科横断して探求的な学びの形態を取れるよう、各教科での情報共有と学期1回の構内研修を行い、本校の教育活動の土台にしていく必要がある。

#### 【見込まれる成果5】

対話力・コミュニケーション能力の向上  
生徒の興味関心を高め、ICT機器の操作能力の向上を行う。

#### 《検証方法》

学校アンケートより、ICT機器を用いた授業展開に関する項目設定を行い、タブレットを用いた授業は、使わない授業と比べて、仲間と一緒に考えたり、話し合ったりしながら授業に取り組めますかについて、85%以上肯定的回答を目指す。

#### 〔検証結果と考察〕

6 成果・課題

学校アンケート内容の「ICT機器・タブレットを用いた授業のわかりやすさ」に関する項目手で86%以上の肯定的な回答となった。本研究を通して、パワーポイントの作成だけでなく、エクセルを使いアンケート調査をグラフでまとめることができるようになった。ICT機器の活用時間は例年増えてはいるが、その中身は効果的かどうかは不明である。今後研究授業や研修会参加を通してより効果的な使用法について研鑽に努める必要がある。また教科指導以外でも、ICT機器を使って『他者に伝える』ことに重点を置き、生徒のICT機器使用力を高め、『インプット→アウトプット』を行う必要性を強く感じた。

#### 【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。

探求学習は、これまでの各教科の学習内容に主眼を置いたものから、教科を超えて子どもたちの学力や資質・能力を育成する、これまでの学校教育の在り方を大きく変革させるものであると言える。探求学習を通して学習に対する興味関心・意欲が高まるとともに、ICT機器の使用など学習過程で今後の社会で求められる資質・能力が育まれる。さらに「インターン」では実社会や実生活の事象や課題を取り上げることから、地域の素材や学習環境を積極的に活用することが不可欠となった。生徒の振り返りシートの記述には、「疑問から課題を見付けてアイデアを出し、それらを思考ツールで序列化するなどの整理をする中で、根拠が自然に出てきて話しやすかった」とある。このことから、話し合う活動を日常的に行うことによって、相手の話を聞きながら考えを生かしたり、まとめたり、深めたりすることができた。課題として、学年全体が課題研究に取り組むことによって取り組みに対数共通理解が深まり生徒の変容を実感できたものの、有効な指導方法についての教員の知識不足を感じている。今後は外部団体との連携を強化するとともに教員の研修を深めるなど、指導のスキルアップを図る方途を模索する必要がある。

#### 《代表校園長の総評》

本市、第3教育ブロックのブロックテーマである「探求」学習に絡めて、社会的変化多様な時代に誰一人取り残さない教育の実現を目指すことの重要性を本研究を通じて、教職員が議論する機会となった。また、先進的に取り組まれている学校訪問や発表を聞くことにより、教師自らが授業実践を振り返り、探求し変容することが本研究を通じてできたことは人材育成の観点からも大きな成果となった。本研究からも今後の課題、目まぐるしく変化する社会に対して、学校教育で身に着けた学力を、社会にどのように生かしていくのか、学力の点数だけの結果だけではなく、社会性、コミュニケーション能力といった学力と社会性、協調性、人間性を絡めた本研究成果をさらに深め、本市第3ブロックが求める「探求・読解」学習と絡めて推進していきたいと思う。